

復興・市民活動情報誌

みみづく

第8号



市民活動センター・神戸

〒651-0065 神戸市中央区割堀通4-2-6
TEL: (078) 265-3511/FAX: 265-3577
E-mail kiroku@dodirect.com
URL www.dodirect.com/kiroku

いまどき「出世魚」などと時代がかつた表現をすると、若い世代から「一体何の『こと』と言われそうな気もする。でも、僕のような年代の人間からすれば、この組織が名前を三回変え、事務所を五

回変えたといった話しさを聞くと、まるで「出世魚」のように感じてしまうのだから仕方がない。

「出世魚」とは成長するにつれて違う名前で呼ばれる魚のことだ。例えば、「これから旬の魚である鱒（ぶり）は、大阪地方では「つばす」「はまち」「めじろ」「ぶり」と四回も名前を変える。同じ魚なのだから名前が変わつても味

は変わらないだろうと思われそうだが、実はそうでない。同じ魚なのに成長するにつれてまるで別の魚のように味が変わつていくのである。だから、我々の先人たちは成長

いまどき「出世魚」などと時代がかつた表現をすると、若い世代から「一体何の『こと』と言われそうな気もする。でも、僕のような年代の人間からすれば、この組織が名前を三回変え、事務所を五回変えたといった話しさを聞くと、まるで「出世魚」のように感じてしまうのだから仕方がない。

「出世魚」とは成長するにつれて違う名前で呼ばれる魚のことだ。例えば、「これから旬の魚である鱒（ぶり）は、大阪地方では「つばす」「はまち」「めじろ」「ぶり」と四回も名前を変える。同じ魚なのだから名前が変わつても味は変わらないだろうと思われそうだが、実はそうでない。同じ魚なのに成長するにつれてまるで別の魚のように味が変わつていくのである。だから、我々の先人たちは成長

まるで「出世魚」のように

一市民活動センター・神戸の
オープンニングを祝う一

ほしい。

京都府立大学前学長（運営委員）
広原 盛明
（運営委員）

京都府立大学前学長（運営委員）

市民活動センター・神戸とはよく考えてみると大層な名前である。神戸

全体の市民活動を代表し集約するような印象を与える。だから、これからは「名前負け」しないようにしつかり頑張ってほしい。

2・6

市民活動 サポートセンター宣言

- サポートセンターとは
- 市民活動センター・神戸の場合
- 寄稿（敬称略）

島田 誠（アート・エイド・神戸実行委員会 事務局長）
村山 日南子（お米の勉強会 代表）
三戸 加代（（特）グッドライフ兵庫 理事長）
山岡 義典（（特）日本NPOセンター 常務理事・事務局長）
加藤 哲夫（（特）せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事）
石井 伸弘（（特）市民フォーラム21・NPOセンター 事務局次長）

特集

7

神戸
短信

- ご入会の状況
(2000年4月末現在)
- ご寄付ご協力 ほか

8

お詫び
の
ページ



サポートセンター宣言



最近全国に、市民活動をサポートする組織（サポートセンター）がたくさんできています。「市民活動センター」「NPOセンター」など名称はさまざまですが、困っている人を直接支援するのではなく、そのような活動をしている団体を支援する組織のことです。

市民活動センター・神戸は四年あまりの曲折を経て、昨秋、本格的なサポートセンターを目指して再出発しました。サポートセンターとはどのような組織で、そして市民活動センター・神戸はどのようなサポートセンターをめざしているのでしょうか。

サポートセンターとは

◆最近のうごき

九六年秋、大阪NPOセンター、日本NPOセンターが設立されたのを皮切りに、全国各地で市民団体への支援をメインテーマとする組織の設立が相次ぎました。その背景としてやはり当時課題であったNPO法（特定非営利活動促進法、一九八八年三月成立）への期待とともに、九五年一月の阪神・淡路大震災におけるボランティア・市民活動の働きがあつたことは間違ひありません。

サポートセンターの役目はひとことで言えば、現場で活動する団

体をバックアップすることです。

サポートセンター、ネットワーク

団体、あるいは最近ではインター

ミディアリ（中間支援組織）などい

くつかの呼び方があつてそれぞれややニュアンスを異にしますが、直接活動・事業を行うよりも、活動・事業を行っている団体へのサポートを目的とするという点では共通しています。

◆幅広い活動内容

以前から、たとえば国際協力の分野におけるNGO活動推進センター（JANIC）など、分野ごとのものはありました。あるいは、組織ではなく個人としてのボランティアのためのコーディネート機関（ボランティアセンター）もありました。歴史の長いものでは（社

福）大阪ボランティア協会（六五年設立）などです。

しかし分野を越えて市民組織を

サポートしあるいは生み出してゆく（インキュベート）ための組織ではなく、それがこの三年ほどの間に、まさに雨後の筍のように数多く生まれました。NPO法の成立に表れている市民活動の興隆がここにも表れているのでしょうか。

個々の団体への支援としては、

▽団体の運営に関する相談、コ

ンサルテーション

▽広域的な情報の収集と発信

▽スタッフ研修その他の組織強化プログラムの実施

▽事務機能の補佐・代行

▽ハード面での支援（印刷機等の機材や会議室・作業スペースの提供など）

などがあり、市民活動全体の基盤整備とは、

▽人と人、団体と団体が出会い

交流するための場づくりや

▽寄付や市民事業への融資を促進するための仕組みづくり

▽行政や企業等とのパートナー

いかんともしがたくネットワークを組むことが必要なこともしばしばあります。

サポートセンターはそのような部分を専門的に担おうと設立されるのですが、その活動内容は、個々の市民活動団体へのサポートと市民活動全体の基盤整備とに大別できます。

サポートセンターは重点

の置きどころによってさまざま

タイプがあります。たとえば、独立した団体へのサポートを中心

に置くセンターと新たな団体を生み

出す機能を中心に置くセンターが

ありますし、右に列挙したサービ

スのうちどれを重視するかもセン

ターによりまちまちです。

ちなみに似た機能を持つものと

して、独立した諸団体の連絡体と

してのネットワーク（名称は〇〇

連絡会、〇〇協議会などさまざま

です）がありますが、ここで述べるのは単独の団体としてのサポートセンターについてです。

シップづくり
▽調査研究とそれにもとづく提言活動

▽NPOの評価システムづくり

▽市民活動全体の地位向上を図るようなキャンペーン等

など多岐にわたります。

両者の境界は曖昧でどちらに分類してもいいものも多くあります

し、またこのようなサポートセン

ター 자체が市民活動の重要な基盤整備の一つでもあります。

市民活動センター・神戸 の場合

◆なぜ支援センターなのか

大震災以来五年間、私たちは記録や市民活動のネットワーキングの活動にかかわってきましたが、その中で、市民活動のセクターとしての成熟・確立が行き詰まつているこの社会を再生してゆくためになりました。

の成熟というのは、単に運動体としての市民活動のパワーアップということだけではなく、専門性を持ち継続してアウトプットを出す事業体としての成熟や、市民活動を職とする人の増加とその待遇の改善、行政や議会、企業など他セクターとのパートナーシップの構築、そしてなにより、市民一人ひとりの参加を一層高めること、などをイメージしています（市民活動や市民団体といいながら、私たちの活動が広汎な市民に支えられていないかどうか、そのことは常に自問しなければならないことです）。また、ボランタリーな活動も大切ですが、市民による社会的な営みが

一つの経済としても成り立つような、市民事業の推進も大きな課題です。

そのためには、それぞれの現場を持つた市民活動の発展とならんで、個々の団体の後方支援や、市民・行政・企業とのパートナー・シップの推進、また新しい社会の仕組みを作るための調査研究や提言といった、現場の事業型NPOとはちょっと違ったことを行う専

寄稿



いう。

震災五年を経過し、仮設住宅も、ほぼ解消し、全てが新たな課題を抱えての再出発となる。

勿論、被災地として抱えてしまった大きな宿題は、ますます重く厳然となる。しかし、センターに期待される役割は、それへの対処にとどまらない。センターはセンターであってセンターでない。それは空間的に把握され、一部表現に古くなってしまつた部分があります。執筆者の皆様には心よりお詫び申し上げます。

市民活動センターに期待すること

アート・エイド・神戸実行委員会

事務局長 島田 誠

震災しみん情報室が活動の拠点も、名称も変更して新たな出発を果たすと、これまでの因子が組込まれているのが現実なのである。

な、市民活動センターといふ組織がどうしても必要です。それが私たちが市民活動の支援センターというコンセプトに集中しようとを考えた理由です。

そのためには、ちょっとしたサポートがあるだけでもっと強く魅力的になる団体がいくらでもあると実感したのが直接の動機といって良いでしょう。

は増え続け、今ではセンターの中は心的業務の地位を占めています。適切な助言や情報提供ができるよう、私たちスタッフもさらに努力する。組織運営とは何かを

◆具体的な事業内容は

門的な組織がどうしても必要です。具体的には、まず個別の団体への相談事業とその延長上にある共同事業の推進に力を入れたいと思っています。開設以来半年、活動相談は増え続け、今ではセンターの中は心的業務の地位を占めています。適切な助言や情報提供ができるよう、私たちスタッフもさらに努力する。組織運営とは何かを

しなければなりません。

市民活動を担う優れた人材の育成もセンターの大きなテーマの一つです。育成といつても基本は〇JT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）業務を通じた研修）であり、また相互の学び合いが大切ですが、しかし一方で、よく言われるようにNPOの運営には企業経営よりもさらに高度な能力が必要とされます。組織運営とは何かを

するには制度の改革が無ければならないし、研究し提言しておればいいといるものでもない。センター自身が活動団体である以上はリーダーとして行動して欲しい。

ではセンターの存立基盤はどうするのか。みんなが最も注目するところである。市民活動生育のための新しい因子を発見して、みずからインキュベート（孵化）して見せ、その「種」をまぐる」を探す。種をまぐるに当たつては、様々な助成制度を仲介し、助成金の一定割合を手数料としていただく。助成先を探す企業に対しても同様である。すなわち助成が助成を生む循環の輪を広げていき、最終的にはNPOインキュベーターとしての社会変革財団、日本のタイプ財團たれ、というのが私の市民活動センターへかける願いである。（神戸市）

われわれ自身もう少し整理する必要があるでしょう。NPOの運営

に関する研究会や、NPO職員を志す人のための実践的なNPO学校のようなものもつくりたいと考えています。

一方、社会的な提言活動やそのための調査研究、あるいは行政・企業など他セクターとの関係（パートナーシップ）づくりにも力を注ぎます。

社会の仕組みが大きく変わろうとしている今日、市民生活の視点から、より良い社会システムのあり方について発言し、その実現のために行動することも、これからの中学生・中高生に求められていることでしょう。私たちが活動する阪神・神戸地域は、大震災ののち数多くのユニークな市民活動が生まれ、今なお発展しつつある地域です。震災から五年以上経た今日では、「震災」「被災者」というキーワードを超えた活動も多く芽吹いています。震災を体験したからこそ、乗り越える可能性について、私たちはなにがしかを発信することができます。感動的で、情感的な議論ではなく、その際、感情的な議論ではなく、

アートとしての 政策提言

（特）日本NPOセンター
常務理事・事務局長 山岡 義典

アートの振興に関する政策提言では

ない。アートで表現した政策提言という意味でもない。市民と交流しながら地域の問題解決に向けて提言をおこない、それを実現する全過程をそのままアートとするもので、全く新しい視点で芸術と社会の関係を紡ぎ出そうとする試みだ。目に見える美術作品を作るわけではないから芸術としては実に理解しにくいが、究極のパブリックアートとも言える。そんな活動をしているアーティストたちに、先日、福岡市で出会った。オーストリアから一週間前にやってきたばかりのヴォッヘンクラウスルというグループだ。ウィーンを拠点に七年前から活動しており、この秋にはベネチア・ビエンナーレにも参加した。今回は文化庁が共催するアーティスト・イン・レジデンス事業の一環として招聘したもので、県や市も共催

としにいくが、究極のパブリックアートが施されていた。議論と想いの日常的な創作？の場でもある。その空間構成と雰囲気自体、それにもてなしの作法もアートといえる。今回はオーストリアから四名が参加、それに地元から日本人三名が加わった。

代表のウォルフガング・ツィングル氏は、芸術家らしからぬ穏やかな語り口で丁寧に説明する。すでに色々な人に出会ったが、これからリサーチをお

に加わっているが、中心になってプロデュースしているのは民間団体のミュージアム・シティ・プロジェクト。

そして今回は文化庁からの視察というじとで、私が訪問することになった。

訪問したのは博多地区の廃校になつて間もない小学校。入り口の上にはド

イツ語で書かれた看板が早速掲げられ、玄関の周囲には、いかにもアトリエの入り口らしく手作りの家具が配置されている。廊下にはこれまでの活動を説明したパネルが画架にかけて並べられ、案内された教室は「カフェ」と呼ばれてカウンターやテーブルが見事にアレンジされている。早くもクリスマス飾り

が施されていた。活動を楽しむのが施されていた。議論と想いの日常的な創作？の場でもある。その空間構成と雰囲気自体、それにもてなしの作法もアートといえる。今回はオースト

リアから四名が参加、それに地元から

日本人三名が加わった。

さが欲しい。

装い新たになった「市民活動セン

専門家でもない余所者に思いつきで何ができるのか。コミュニティをアートの

材料などに使ってほしくない。何となく、真面目なNPOの関係者からはそん

ターコークの機能が一本の柱のようだ。これまでの実績を生かして着実な成果をあげることは確かに思うが、同時に神戸にふさわしい新しいアート感覚を育んでほしい。とりわけ、政策提言によるアート感覚を期待したい。私たちの日本N

POセンター自身も、そのように努めたいと思うが。（東京都渋谷区）

論理的・実証的な調査や分析にもとづく提言でなければならないのは言うまでもありません。

行政との関係も大きなテーマです。一般論としては、緊張感を保

行わない、ということでしょうが、いうこと、つまり、市民生活をより良くする事業をNPOと行政が共同で行つたり、NPOが先駆的に取り組んでいる事業を行政がサポートする、しかしあくまでNPOの自主性を重んじ不要な介入は

柔軟性といったNPOの本質を損なわないような、健全なパートナーシップを築いてゆくために尽力したいと思います。

しない、地域住民たちとディスカッションをし、問題点を抽出して何をすべきか

NPOの活動自身がアートなんだ。NPOで働くことがそもそもアートワークなんだ。そんな思いが、頭から離れない。

市民団体の部屋などと汚く乱れて窮屈なのが相場であるが、NPOセン

ターや市民活動センターにはアトリエのような明るさと幹なセンスが欲しい。

そんな場所には、威厳あるしかめつ面

よりも大らかな笑顔の方が相応しい。

市民団体の主張というと暗く理屈っぽ

いものが多いが、これから政策提言には直感を大切にした軽やかさや美しい

感覚を育んでほしい。

このように列挙しただけでもか

割を果たせるだけの力を養つてゆきたいと思いますが、その際、あくまでも「現場の団体の繁栄」これが原点であると思っています。それは決して現場の団体の意向を伺い、下請けに徹するという意味ではありませんし、もちろんその逆ではありません。例えばNPO自身の情報公開など時には辛口の視点も示しながら、究極の目標はあくまでも個々の団体の発展と市民活動全体の発展、そしてそれを通じたよりよい社会づくりです。私たちの役割はそのための基盤づくりですから、私たち基盤整備組織の発展をもって市民活動の発展と誤解しないよう気をつけなければならぬと思っています。

◆「民設民営」の支援セ

ンターとは

「市民活動センター・神戸」は民設民営のサポートセンターです。行政・企業とも協力関係は持ちますが、人事面でも財政面(注)でも、完全に独立した市民団体です。官設のセンターが全国に設置され、同じ兵庫でも同様の計画があ

ります。行政立のセンターにも設備・機材の提供などそれなりの役割があると思いますが、私たちは、市民活動サポートのうちの相当部分、とりわけ支援のソフトにかかる部分は行政には難しいと考えています。特定の行政施策に反対する活動への支援はいうまでもなく、個々の団体の内情にまで踏み込んだ積極的かつ具体的なアドバイス、権利擁護や新しい価値の実現のための政策提言、ネットワーキングなどは、行政には決してできないし期待する必要もないことです。そしてこれらのこと、つまり既存の社会のあり方に対して別の価値観や選択肢(オルタナティブ)を提示することが市民活動の本質だと私たちは考えており、センター自身もそうであるとともに、そういった活動を積極的にバックアップしてゆきたいと考えています。

(注)センターの財源は、①会費・寄付が二割強、②自主事業収入が一割、③委託事業費と④民間助成金が三割です(九九年度見込み)。将来的には、上記①～④が均等に四分の一ずつという状態を目指しています。

こんな近くに、ラッキー。

(特)グッドライフ兵庫

代表 三井 加代

割を果たせるだけの力を養つてゆきたいと思いますが、その際、あくまでも「現場の団体の繁栄」これが原点であると思っています。それは決して現場の団体の意向を伺い、下請けに徹するという意味ではありませんし、もちろんその逆ではありません。例えはNPO自身の情報公開など時には辛口の視点も示しながら、究極の目標はあくまでも個々の団体の発展と市民活動全体の発展、そしてそれを通じたよりよい社会づくりです。私たちの役割はそのための基盤づくりですから、私たち基盤整備組織の発展をもって市民活動の発展と誤解しないよう気をつけなければならぬと思っています。

は、市民活動サポートのうちの相当部分、とりわけ支援のソフトにかかる部分は行政には難しいと考えています。特定の行政施策に反対する活動への支援はいうまでもなく、個々の団体の内情にまで踏み込んだ積極的かつ具体的なアドバイス、権利擁護や新しい価値の実現のための政策提言、ネットワーキングなどは、行政には決してできないし期待する必要もないことです。そしてこれらのこと、つまり既存の社会のあり方に対して別の価値観や選択肢(オルタナティブ)を提示することが市民活動の本質だと私たちは考えており、センター自身もそうであるとともに、そういった活動を積極的にバックアップしてゆきたいと考えています。

カット、毛染めなどのサービスを提供する活動を行っています。ただ髪を切つさしあげるだけではなく、ちょっととした世間話で健康状態や、何か必要としておられるものをお聞きすることができます。そんなときにおこたえするのも重要な仕事ですが、わからないことがあったときはセンターを頼りにさせてもらいたいと思います。

また、理美容師という技術者の集まりで、お互いの技術については情報交換もしていますが、そのなかだけで過ごしがちな毎日なので、他の活動や地域の人との交流の場はあまりありません。気軽に行ける場所にいろんな分野の人々が集まるセンターができる、いろんな情報を収集できるようになり、いい機会が与えられたとうれしく思っています。

ですからセンターには、いつも、たくさんの人が出入りしている活気のある場です。それに、「みみずく会館」の活用により、他団体とのネットワークが広がる修理や講座なども多く開催して頂ければ嬉しいです。

被災地こうべはどんなまちを未来の子どもたちに残すのかな?

お米の勉強会

代表 村山 日南子

が原点であると思っています。それは決して現場の団体の意向を伺い、下請けに徹するという意味ではありませんし、もちろんその逆ではありません。例えはNPO自身の情報公開など時には辛口の視点も示しながら、究極の目標はあくまでも個々の団体の発展と市民活動全体の発展、そしてそれを通じたよりよい社会づくりです。私たちの役割はそのための基盤づくりですから、私たち基盤整備組織の発展をもって市民活動の発展と誤解しないよう気をつけなければならぬと思っています。

は、市民活動サポートのうちの相当部分、とりわけ支援のソフトにかかる部分は行政には難しいと考えています。特定の行政施策に反対する活動への支援はいうまでもなく、個々の団体の内情にまで踏み込んだ積極的かつ具体的なアドバイス、権利擁護や新しい価値の実現のための政策提言、ネットワーキングなどは、行政には決してできないし期待する必要もないことです。そしてこれらのこと、つまり既存の社会のあり方に対して別の価値観や選択肢(オルタナティブ)を提示することが市民活動の本質だと私たちは考えており、センター自身もそうであるとともに、そういった活動を積極的にバックアップしてゆきたいと考えています。

カット、毛染めなどのサービスを提供する活動を行っています。ただ髪を切つさしあげるだけではなく、ちょっととした世間話で健康状態や、何か必要としておられるものをお聞きすることができます。そんなときにおこたえするのも重要な仕事ですが、わからないことがあったときはセンターを頼りにさせてもらいたいと思います。

また、理美容師という技術者の集まりで、お互いの技術については情報交換もしていますが、そのなかだけで過ごしがちな毎日なので、他の活動や地域の人との交流の場はあまりありません。気軽に行ける場所にいろんな分野の人々が集まるセンターができる、いろんな情報を収集できるようになり、いい機会が与えられたとうれしく思っています。

ですからセンターには、いつも、たくさんの人が出入りしている活気のある場です。それに、「みみずく会館」の活用により、他団体とのネットワークが広がる修理や講座なども多く開催して頂ければ嬉しいです。

同じ地域で活動する者としては、地域の人たちに向かって、私たちのことだけではなく、様々な市民活動があること

とを知らせる情報提供の窓口になつて

お近くになつたのを幸い、大いに利

用させてもらいます。(神戸市)

戸」が引つ越して来てくれたなんて……なんてラッキーなんでしょう。私たちは、病気や障害のために外出できない人のお宅などを訪問して洗髪、カット、毛染めなどのサービスを提供する活動を行っています。ただ髪を切つさしあげるだけではなく、ちょっととした世間話で健康状態や、何か必要としておられるものをお聞きすることができます。そんなときにおこたえするのも重要な仕事ですが、わからないことがあったときはセンターを頼りにさせてもらいたいと思います。

また、理美容師という技術者の集まりで、お互いの技術については情報交換もしていますが、そのなかだけで過ごしがちな毎日なので、他の活動や地域の人との交流の場はあまりありません。気軽に行ける場所にいろんな分野の人々が集まるセンターができる、いろんな情報を収集できるようになり、いい機会が与えられたとうれしく思っています。

ですからセンターには、いつも、たくさんの人が出入りしている活気のある場です。それに、「みみずく会館」の活用により、他団体とのネットワークが広がる修理や講座なども多く開催して頂ければ嬉しいです。

震災後、これからの地域社会のありたつについて多くの団体が考え、実践、提案を続けておられます。安全性や自然を壊した影響についての検証と、都会の自立を確保する提案はまだされていません。どこでも起こり得る大都市型災害時の環境・人体汚染防止や防災のためにも、食べ物の生産・消費を通した防災協定作りを提案したいと思います。ライフライン確保のための努力工事を集めた知恵袋集も必要です。センターにはこういった震災からの混乱の中で、この状況と市民、ボランティア・グループの活動の記録を市民の側から残さなければ、と思い続けていたとき、「震災・活動記録室」が情報を集め、さらにその後「グループ名鑑『兵庫・市民人』'97」を作られました。そしてこの度、センターを設立され、うれしくなりません。ただ名前の「神戸」は「阪神・淡路」の意味も含め「こうべ」といふに改めたいのです。そこで、私たちが自分の命を守る術を何も持たないことを痛感させました。震災は、私たちが自分の命を守る術も組みみたい、と思っても声かけができない、やりたい活動を満足のいくほどにはできないでいます。そのあたりのサポートや、私たちの活動を外から見てもうつて、客観的なアドバイスがもらえるようになつてきましたが、もうともっと参加者が増えるように、力を発揮してもらつことを期待します。(西宮市)

悩みも大きいが夢も大きく

(特)せんらい・みやぎ

NPOセンター
代表理事 加藤 哲夫

震災からまもなく五年。震災・活動記録室の皆さんとお会いしたのは、ちょうど震災から二年くらい経った頃だろうか。市民活動地域支援システム研究会という舌を噛みそ事に大いに畏敬の念をいだいていたのだ。震災直後の惨状を目のまことにしていた私は、神戸でのさまざまな救援活動団体の皆さんの方へも、さまざまに救援活動の記録をひとつ柱に、他方、奈良、広島、仙台で、地域の市民活動のサポートセンターを民間からつくり出すための共同研究を進めていた。この研究はのちに大阪が加わり、それぞれの地域で特色のあるサポートセンターを生み出すことになった。

私たちの「せんらい・みやぎNPOセンター」は、その中の一つで、九七年の十一月に設立、現在三期目を迎え、特定非営利活動法人にもなっている。エレベーターのないマンションの四階で220Kの畳敷きから

は、支援をしたいニーズを潜在的に供してもらっている。また、仙台市の市民活動サポートセンターという施設の管理運営を受託しているため、総勢十五人ものスタッフを抱えるサポートセンターになってしまった。小

さうちはある程度の規模になりたないと熱望するものだが、大きくなればなつたで、悩みもまた大きくなるものだ。

そんな中、震災しみん情報室が、ビルを提供されて、市民活動センター・

神戸として再出発をするという。支援センターでありシンクタンクであるというコンセプトは、私たちも同様の考え方をしてきたが、市民活動の現場ではなかなか理解されにくい性質のものだ。私たちはこの二年間、仙台・宮城の地において、市民活動が社会的

に認知され、エンパワーメントされるために、啓発と交流を中心講座や

フォーラムなどさまざまなイベントを重ねてきた。また、行政セクターの理解を促し、適切な支援を提供させ、内部改革を進めさせるために、「アドボ

カシ」と基盤整備に力をそいできた。まだまだ直接に資金や情報の支援が欲しいと思っている層に満足していない。まだまだ直接に資金や情報の支援

は私たちだけという、寂しい日も続きましたが、少しすつ、しかし確実に利

用者も増えてきました。十月には念願

始まった活動も、現在は企業の協力によりビルのワンフロアを格安で提供してもらっている。また、仙台市の

市民活動サポートセンターとい

は、支援をしたい個人や組織である。私たち、この後二者の持てる資源を活用して、支援が欲しい人々や組織に、適切な支援を提供する

ことが、活動の中心になると考

る。

「」数年、全国にそくそくと支援組織が誕生している。お互いに切磋琢磨して力をつけていきたいものだ。

（仙台市）

わたしは民間で進める最大の特徴は、その参加性の高さではないかと思っています。何か施設に関して不具合があったら、自分たちで直す。買つてくる、調達する、変更する。自分たちが決め、自分たちが実行するのです。まさに、「ボランティアズムですね。

（名古屋市）

そして、もうひとつの特徴は自由度です。朝早くから使いたい人がいれば開館しますし、休館日も利用者がいれば開館してしまいます。また、内装も、イベントも、それぞれ節度と、自己責任において進められることが最大のい

民設民営の仲間として エールを送ります

(特)市民フォーラム21

NPOセンター

事務局 石井 伸弘

何はともあれ、民設民営のNPO支

援施設のオープン、おめでとうござい

ます。私たちも名古屋で築四十年余り

のオンボロビルを格安でお借りして、

民設民営のNPOサポート施設「NPO

「ラザナ」や」をスタートさせてよ

うやく半年たちました。最初は利用者

など、まさに「いい感じ」でした。

私たちの「試み」は、始まつたばかり

うです。しかし、従来の公共施設のよ



神戸短信

●仮設住宅入居者ゼロに

自然災害で失われた住宅の再建支援策を検討してきた。自然災害から国民を守る国会議員の会は、支援に必要な財源を全額公費負担とする制度案をまとめた。これは、想定される年間一六〇〇億円の給付額のうち二分の一を国、残りを都道府県と市町村が半分ずつ負担するというものの、阪神大震災後、兵庫県が「国民の安全・安心システム」を提唱するなど、互助・共助の理念に基づく共済案が検討されていたが、住宅所有者からの掛け金徴収に伴う手間とリスクの大きさから、案としては見送られることとなつた。

たしかに国民年金への未加入者が三分の一にのぼることなどを考えれば、広く一般から掛け金を集めるのは容易ではないだろう。が、自治体の拠出する基金に国が補助するというしくみに大蔵省は消極的で、実現の見通しは甘くない。また国や自治体の財政負担が増えれば結局は国民一人一人が税金として負担することになる。互助・共助の意識を持ったまま徴収されるのでは、助け合いの大切さを実感した大震災の経験がない生かされることは言えないのではないだろうか。

被災者住宅再建支援制度案まとめ

昨年末に「街づくり支援協会」と神戸大の塩崎賛明教授が一時避難者二千人を対象に合同で行つた調査では、回答を寄せた五二七人のうち七割余りがもと住んでいた地に戻つておらず、その約半数が「戻りたいが戻れない」と答えてゐる。

実態の把握がいつそう困難な被災地内・仮設外被災者も含め、今からでも大規模な悉皆調査を行ふべきなのではないか。実態が不明確な今の状態では、復興が成つたのかを判断することもできない。

(や)

神戸短信

今年一月十四日、阪神大震災の被災者向け仮設住宅から、入居者の最後の一人が自宅の再建を終えて転居した。九五年十一月のピーク時には四万七九一世帯が入居し、被災地の象徴とも言われた仮設住宅も、六年目を直前にして役目を終えたことになる。

しかしこのことが被災地の復興完了を意味するわけではもちろんなく、仮設に入れなかつたり入らなかつた被災者、県外や被災地外に逃れ、今も元の地に戻れない被災者の存在を忘れてはならないだろう。

◆ご寄付(2000年4月末まで、以下同じ)

アート・エイド・神戸実行委員会さま
渥美公秀さま、今田忠さま、大日向郁夫さま
岡内克江さま、掛水すみえさま、河合房子さま
木原勝彬さま、倉光弘己さま、黒田裕子さま
後藤才正さま、路子さま、小林正平さま
寿ボランティアグループさま、佐藤恵さま
ザ・ボランティア'95さま
田浦博昭さま、陽子さま、高森一徳さま
樽谷紘三さま、筒井耕二さま、寺尾美代子さま
寺澤美香さま、中川弘子さま、野崎隆一さま
水上バスミルク生産会さま
被災地障害者センターさま、堀田雅之さま
松下哲雄さま、宮本寿子さま、室崎益輝さま
八ツ塚一郎さま、山口眞来さま、渡部智暎さま
八十庸子、(匿名希望)

◆助成金

生活復興県民ネットさま
しみん基金・KOBEさま、日本財団さま
毎日新聞大阪社会事業団さま

◆ホームページ制作

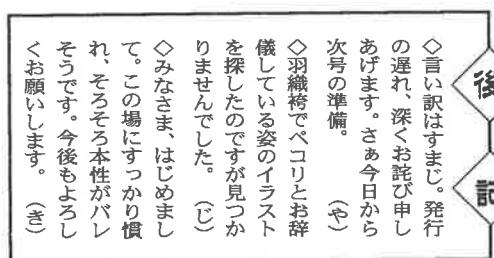
佐々木康哲さま、杉谷正明さま、羽田昇正さま
諏訪晃一

◆みみずく刊行へのご協力

河合房子さま、菅陽子さま、田浦彩子さま
釣徹雄さま、山口真司さま、山崎ゆりさま
大和田信行、品田房子、田坂美代子

◆編集スタッフ

石川知子、今田忠、橘高由美、熊沢幸子
桑原英文、実吉威、諷訪晃一、中田豊一
森下茂豊、森田博一、八十康子、吉岡瑞穂



このニュースレター“みみずく”は、兵庫県および全国の市民活動団体や行政・企業・組合などの団体や、国会・地方議員、研究者および関心ある個人の方々などに、約3000部をお送りしています。

会員のみなさま 2000年4月末現在・新規会員登録数

今回もこのように多くの方々がご入会くださいました。ありがとうございます。みなさまからのご期待に応えるべく、一同努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

★一般団体	年会費一千万円)	実吉	田浦博昭	陽子
★スタジオオーディオ	神戸空港を考へる会	堀田	雅之	神奈川県
★市民団体	年会費五千円)	大塚	佐藤	松下
★神戸市	シルバーライフ情報友の会	埼玉県	遠藤	哲雄
アシア女性自立プロジェクト	チャイルドライフプロジェクト	大坂府	石田	高森
神戸北部まちづくり協議会	野田市立中央図書館	木岡	木岡	一徳
兵庫移設サービスネットワーク	中島	筒井	佐藤	釣鉤
フヨミーストカウンセリング神戸	吉川	木	佐藤	徹雄
未来をひらくマブイ六甲	若宮	藤本	正樹	京都府
六甲いやしの学校	辻井	吉川	敏子	大津
〈尼崎市〉	ボランティアグループ	吉川	勝裕	和歌山県
〈西宮市〉	西宮・地域たすけあいネットワーク	惠	恵	藤岡
〈伊丹市〉	コムニティースペース	寿	秀男	里圭
〈明石市〉	君住む街	淳	秀子	隆志
魚住フリーマーケットの会	八ツ塚	陽子	直子	野々村
金製糸錠配分問題研究会	八ツ塚	陽子	長嶋	弘之
近畿プロジェクト	辻井	太郎	野津	明
〈姫路市〉	八百屋ほたる	伊藤	藤原	耀
〈東京都〉	個人(年会費五千円)	金	吉川	野崎
山田 和男	河野	稻	野田	長嶋
正和郁	正和美夫	泉	辻井	谷崎
潤子	良邦平崇	石	吉川	田村
潤子	和孝道	岡	吉川	田村
潤子	合田	伊藤	吉川	田村
潤子	薰	和田	吉川	吉川
★購読	(年会費三千円)	足立	足立	高森
★神戸市	蓮田市NPO支援担当	内田	内田	堀田
★埼玉県	増田	神田	克江	堀田
★和歌山県	増田	神田	江子	堀田
★学生	(年会費三千円)	朴	栄治	堀田
★神奈川県	COOM総合福祉研究所	松井	守	堀田
★大阪府	三田市	和田	光司	堀田
★京都府	川西市	和田	幹	堀田
★大津	川西市	吉川	利守	堀田
★和歌山県	芦屋市	吉川	江子	堀田
★堀田	市民街づくり連絡会	吉川	江子	堀田
★堀田	西宮市立中央図書館	吉川	江子	堀田

みみずく発行の逓延をお詫びいたします

センター会員のみなさま、たいへんご無沙汰しておりました。前号の発行からなんと半年以上空いてしまいました。深く深くお詫びいたします。また、早くから原稿を寄せていただきいたみなさんにはとても失礼なことになりました。重ねてお詫び申し上げます。

この間センターはいったい何をしていたのか?もちろんさぼっていたわけではなく、事務局は100%、フル回転しておりました。ご承知のように昨秋、私たちは神戸市中央区の新事務所に移転・改称しましたが、それ以来、私たちの予想をはるかに超える訪問・問い合わせや、しごとの依頼、共同事業のご提案などが寄せられました。それはもちろん非常に嬉しいことであり、「市民活動の支援」「震災からの学びの発信」というセンターの中心コンセプトに合致する限り、すべて受ける方向で努力してまいりました。本号の特集記事に書いた「サポートセンター」への期待やニーズがこれほど高いとはわれわれ自身驚きでもありました。

ただ、そのニーズの急増にセンターの体制整備がまったく追いつきませんでした。昨秋以来、スタッフの増強に力を入れてきましたが、資金面の問題もあり、慢性的な人手不足は解消されていません。その状態が、このようなみみずく発行の逓延となつて現れました。

この半年間の主な事業

(1999.9~2000.4)

◆市民活動サポート・人材派遣事業

6号、7号で掲載した、緊急雇用対策「市民活動サポート・人材派遣事業」を当センターが受託し、2月下旬から本格的に派遣がスタートした。一般的の求職者を広く公募し、神戸市内のNPOに、組織基盤強化のためのアドバイザーとして派遣する。派遣期間は6ヶ月、更新はないため、慣れたところには雇用期間が終わるなど、派遣員または受け入れ団体にとって、限界のある制度であるのは事実だ。しかし、この事業が始まって2ヶ月が経ったが、派遣員同士の雰囲気も良く、研修等により広く他の市民活動を知ることで、身近な団体を見直す機会にもなったようだ。当センターにとっても、団体とのネットワークが深まり、また、センター自身の組織基盤を見直すきっかけにもなるなど、多くのことを得ている。(橋)

市民活動センター・神戸 代表 実吉 威

◇グループ名鑑2000.完成!

昨年5月のアンケート実施から9ヶ月、この2月によく「グループ名鑑2000」が完成しました。

3年前の「グループ名鑑'97」発行の際は、兵庫全域を網羅した初の市民活動名鑑として、多くのみなさんに活用していただきました。今回は、県内437団体を地域別に収録してみました。この本をきっかけにみんなさんの活動や交流の輪が広がれば嬉しいかぎりです。

編集作業については、60名あまりのボランティアの方々の協力をいただきました。何度もパソコントラブルにみまわれ、産みの苦しみも味わいましたが、みなさんのお力によりなんとか完成にこぎつけることができました。

読みごたえも、使いごたえもたっぷりの新・名鑑を、ぜひご活用ください。

名鑑は350ページ・B5判・2千円(税別)です。お問い合わせはセンターまで。神戸・三宮周辺の一般書店でも発売しています。(吉)

KEC この半年のあゆみ

2000年								1999年		
4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	26日 新事務所に引っ越し	1日 市民活動センター・神戸に改称	2日 市民活動スタッフ研修 みみずく第七号発行
下旬 CB調査報告書・リーフレット、脱稿	25日 CB調査、公開報告会開催	6日 グループ名鑑2000完成	28日 人材派遣事業、正式スタート	17日 震災五周年 18日 市民検証フォーラム	7日 助成金申請・相談会 14・15日 「市民社会構想フォーラム」開催	28日 新センターお披露目交流会				

◆コミュニティ・ビジネス支援調査

兵庫県では99年度、「コミュニティ・ビジネス」(CB)の支援策をいくつか打ち出しましたが、そのひとつ「参画支援事業」としての調査事業を私たちが受託した(6月末)。ボランティアグループやNPOの活動継続に事業化の視点が必要との認識のもと、当センター運営委員、市民社会研究所所長の今田忠さんを座長に委員会を編成し、ほぼ月1回の委員会と関東・名古屋地区なども含むヒアリング調査等を行った。だが、萌芽状態のCBについてできるだけ多くの選択肢を提示しようと、CBについて「地域を基盤とし、社会的ニーズに応える事業」という広い捉え方をしたため、その中にはさまざまな形態・レベルのものが混在することとなった。そのためもあって報告書の執筆は難渋し予定の完成期限を大幅に超過してしまった。また、他の事業へのしわ寄せも大きく、調査研究スタッフの育成が急務であることを痛感した。作成した報告書およびリーフレットについてのお問い合わせは事務局まで。(八)